

善意通訳組織「東京SGGクラブ」の概要

住所： 東京都台東区雷門2-18-9 浅草文化観光センター内

電話： 03-6280-6710

創立： 1983年2月

会員数： 平成26年10月現在 158名（女性7割、男性3割）

対応言語： 主に英語 フランス語 ドイツ語 中国語

会員資格： 年1回の入会選考（書類審査、面接、2ヶ月間実習）、英検2級以上及び同等の多言語能力

活動拠点：

JNTO観光情報センター（丸の内TIC）

台東区立浅草文化観光センター

台東区立下町風俗資料館

上野公園・グリーンサロン内

築地場外市場ぷらっと築地案内所

活動内容：

ボランティア精神に基づき、外国人旅行者に旅行案内情報の提供と同行案内

- ① 台東区立浅草文化観光センター：カウンターでの情報提供と同行案内（365日年中無休）、4名/日（9：30～17：00）、5名/土・日（同行案内90分～120分）
- ② 台東区立下町風俗資料館：館内展示物の説明（月曜日定休）、2名/日（10：00～16：00）
- ③ 上野公園観光案内センター：上野公園の同行案内（水曜日、金曜日、日曜日）、2名/日
同行案内90分～120分
- ④ JNTO観光情報センター（丸の内TIC）：旅行情報の提供（年中無休除1/1）、1名/日（12：00～16：00）
- ⑤ 築地場外市場ぷらっと築地案内所：カウンターでの情報提供（年中無休除年末年始）、1名/日（9：30～13：30）

月次シフト数：270～280、勤務時間 1,000時間以上

提供情報：パンフ・資料配布、イベント、交通、買い物、食事、宿泊、文化（神社、仏閣、博物館）、芸能、スポーツ（大相撲）、娯楽、体験もの（お茶、着物、忍者）、近隣観光地案内・交通・旅行計画、全国観光地案内、近隣施設、年間イベント

同行案内：

浅草地域（浅草寺境内）の歴史的建物、スポットの案内

上野公園内の歴史的建築物、スポットの案内

他に、役員会の承認する特定活動：

晴美・大井ふ頭接岸の大型クルーザーの観光客への情報提供、都美術館での作品案内、防衛省、教育機関（高校、大学）、公的機関依頼の同行案内、メディア依頼の取材協力、地方自治体のイベント協力など

活動実績（活動拠点での案内外国人数）：

平成23年度（平成23年4月～平成24年3月）	23,337人
東日本大震災の影響	
平成24年度	40,932人
平成25年度	73,025人
平成26年度（平成26年4月～平成26年12月現在）	68,111人

拠店別現状（月間概数） 浅草センター/5,000名（内同行案内80名）、下町風俗資料館/500名、上野公園/70名、T I C丸の内/200名、築地場外市場/2,000名

会員参加の定例活動：

会員年次総会 毎年5月

懇親会 5月、10月、12月

役員会 毎月第3土曜日

会員月例会 毎月第3土曜日

研修会 案内実地体験、拠店研修、外部訪問、座学定期研修、外部講師講座

会員主導型活動 近隣観光地訪問による案内活動の強化（年間3回程度）

会報による月間活動報告

会員サロンによる会員への活動報告

課題：

会員のモチベーションの維持（高齢化、活動多様化）

SGGの全国連系

通訳案内士制度のあり方に関する意見

平成27年1月20日

東京SGGクラブ

石関文昭

(観光庁資源課資料による) 通訳案内士の活動状況

活動する通訳案内士の就業状況 — (N=1564人の)
年間の就業回数は4割が年間10回以下、11%が100回以上。
年間の就業日数は半数が30日以下、9%が100日以上。
年間の案内外国人数は10万人～15万人前後

日頃の観光客からの不満はWi-Fiの整備不足、街中の多言語表示の不備などは聞いても通訳ガイドが不足しているということは聞かない。観光客8割/アジア vs 英語登録/8割 (闇ガイド、帯同ガイド)

SGGクラブへの入会希望、各地SGGの催行する同行案内への参加などは良く聞くとこ
ろである。

「通訳案内士」資格制度の法的位置づけ

60年前の業務独占の意味 — 国が保証する良質な案内士の育成・確保
現在の環境 — 業務独占と言うものの、罰則は無い、需要が少なく生業として成り立つの
はわずか。顧客ニーズや旅行形態の多様化は進むが一定のプロのガイドの確保は必要。

観光客2000万人時代の通訳案内士。観光客増加と通訳案内士数は無関係

善意通訳ボランティア活動 / 通約案内士活動の住み分け —
ボランティア活動は地域限定(無償、地域との深い関係)、個人旅行者(80か国から)。
SGG団体は全国に点在するが連携はしていない。
善意通訳普及運動(小さな親切)、街中の活動、顧客満足度、優先はホスピタリティ精神

通訳案内士業務は全国ベース(有料、浅く広く)、個人富裕層、団体観光客。
高度なスキル・おもてなしで全国をカバー。特別なニーズを満たす(少ないが)一定の需要
がある。国家で保証する意味がある。

一方で足りないと言われる通訳案内士の現状 —
何処で足りないのか(個人富裕層、グループツアー、団体観光客)。

一定の品質水準や量を確保・提供する対応策 — 通訳案内士 2 層構造の推進（観光タクシーなどの特例措置）

資格付与のあり方

試験で一定水準を確保し付与する方法は妥当。難易度・合格率も現在の水準で妥当。ただしサービスが満足できる水準に到達するには実務を経験しながら十分な研修・実習が必要。問題は現在の試験が就業に結びつかず、需要が少ないこと。語学力・知識を証明するため、自己研鑽・趣味という動機が多い。資格があればそのうち何かの役に立つだろうという程度。

需要がないので、とりあえず

通訳案内士が語学力、知識、スキルの維持を狙い善意通訳組織（S G G）に入る例
通訳案内士が S G G の催行する外国人同行案内に参加の例

資格取得後の品質確保策

需要の創出

資格取得者の利用促進策

認知度向上のための宣伝（国、自治体、業界団体）

訪日外国人旅行者 2000 万人時代に向けて

通訳案内士

観光・日本文化のプロ、ツアーコンダクター

埼玉県通訳案内士能力スキルアップ研修会（30 人枠に 250 人以上の応募）

善意通訳ボランティアガイド団体

地域ブロック会議、全国会議

地方自治体のボランティア育成（学生、市民、商店街参加）

東京都の 2020 年オリ・パラ（7 万人のボランティア）、奈良県（800 人規模の全国観光ボランティアガイド・サミット）、埼玉県観光ボランティアガイド連絡会議・実地研修